

令和3年度 自己評価書

学校名	和歌山市立高松小学校
校長氏名	島本和昌
作成日	令和4年2月25日

1 教育目標

豊かな人間性と、自ら学ぶ意欲を持ちたくましく生きる子どもを育成する

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	・学校評価保護者アンケート ・児童アンケート ・研究授業記録 ・うちどく100冊認定児童数	・学校評価保護者アンケート ・児童アンケート	・学校評価保護者アンケート ・児童アンケート ・全国学調質問紙アンケート ・きのくにチャレンジランキング	・学校評価保護者アンケート ・児童アンケート
重点目標	・子供が主役の授業の推進 ・読書活動の推進	・子供同士の仲間意識を高める ・読書活動の推進	・基本的生活習慣の確立 ・体力向上の推進 ・安全に関しての意識の向上	・地域・保護者とのあたたかい連携の充実 ・幼稚園・小学校の連携
取組の状況	・全担任が研究授業を行った。コロナ禍のため6月の研究授業は一部リモートで行った。11月には和歌山市内に向けて研究発表を行った。高松の研究について多くの賛同を得た。機会あるごとに教育委員会や大学教授などに指導を仰いだ。 ・授業記録をもとに協議を深めた。子供の事実をもとにした協議を行った。 ・基礎的な問題だけでなく発展的な問題を繰り返し挑戦できる場を設定した。 ・読書活動を推進した。	・学年の発達を考え道徳教材の活用を計画的に取り組んだ。 ・図書ボランティアの方々の協力を得ながら子供が良書に出会うことができるように努めた。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止を視野に入れつつ縦割り活動に取り組んだ。児童間の縦のつながりをできるだけ経験できるように協議し実施した。 ・いじめアンケートを実施した。 ・早期発見早期解決に努めてきた。	・新型コロナウイルス感染拡大を防ぐ指導を継続して取り組んだ。 ・運動する楽しさや大切さを感じ取らせる場づくりに力を入れた。 ・ソーシャルディスタンスを意識させながら体力づくりに取り組んだ。 ・火災・地震・不審者などを想定した避難訓練を実施した。	・交通指導員、交通安全母の会、公民館、PTAの皆様等多くの地域住民の方々の協力を得て子供の安心安全を守っている。 ・地域先達、図書ボランティアの方などの協力得て子供たちに有益な読書環境づくりに取り組んでいる。 ・感染防止の観点に立ち参観授業を計画した。複数日、複数時間予定することで密を防ぎながら参観授業を実施することに努めた。
取組の成果と課題（評価結果）	・全国学力テスト(6年)や和歌山県学習到達度調査(4・5年)において、どの学年も正答率が県・市平均を大きく上回る結果をえられた。 ・多くの助言者から子供の事実に基づいた協議であると評価いただいた。 ○アンケートから ・「授業内容がよくわかる」児童は93% ・「子供が意欲をもって取り組む授業づくりに努めている」と答える保護者は90% ・「基礎基本をおさえ、指導の工夫・改善・評価をしている」と答える教員は100% ・「読書は自分にとって良いものだとう」児童は90% ・「100冊以上読書している」児童は56人(2月22日現在)	・地域先達・読書ボランティアの皆様との協力で子供の読書意欲が高まった。 ○アンケートから ・「学校に行くことを楽しみにしている」と答える保護者は91% ・「安心・安全の確保に努めている」と答える保護者は93% ・「学校は楽しい」児童は93% ・「友達と仲良くしている」児童は98% ・「子供の良い所を認められほめられ成長している」と答える保護者は93% ・「読書は自分にとって良いものだと思う」児童は90%	・感染予防の指導を丁寧に取り組んできたことにより感染予防対策を自主的にとる行動を見せる児童が多くなった。 ・体育的な様々な種目に対してスモールステップできる取組を行った。今後も体を動かすことが好きな子供を育てていきたい。 ・訓練の様子から防災意識の高まりと定着を感じる事ができた。 ○アンケートから ・「給食を楽しみにしている」と感じている保護者は88% ・「給食を楽しみにしている」子どもは93% ・「ほぼ毎日、朝食をとっている」子供は95%	・交通指導員・交通安全母の会・PTAの皆さん等の協力を得て「地域とともにある学校」を目指し前進することができている。 ・登下校において見守りの方が積極的に声をかけてくださることによりあいさつできる子供たちが増えてきている。 ○アンケートから ・「挨拶やマナー等、基本的生活習慣は身につけている」と感じている保護者は90% ・「学校だより・学年だより、ホームページ等により教育活動の様子を知らせている」と感じている保護者は89% ・「相手にとって気持ちの良い挨拶や話し方をしている」児童は89% ・「学校の出来事をよく話す」と感じている保護者は85%
改善方法	・基礎基本だけでなく発展問題にふれる機会を今後も設定したい。 ・教員の教材研究や授業づくりにかける時間を今後も確保していきたい。 ・コロナ禍でも授業力向上できる研修を工夫し充実を図りたい。 ・教員の学級経営力を更に高めたい。	・子供の自己肯定感を高めることができる評価を目指したい。 ・子供一人一人の居場所づくりを確保できるようにしたい。 ・遠慮せずだれとでも話ができる学級風土づくりに努めたい。	・各学年の体育授業における単元計画を更に充実させたい。 ・感染防止対策を視野に体力を高める授業づくりに努めていきたい。 ・健康指導について発達段階を考慮し養護教諭と担任が連携し繰り返し指導を深めていきたい。 ・感染対策の更なる徹底を行いたい。	・コロナ禍のために地域の方々と直接交流する機会が難しいが今後も地域の方の「優しさ」「感謝」等を教材として子供たちに考える機会をもたせたい。 ・挨拶について今年度子供たちと考え合いたい。 ・ホームページや学校だよりなどを通して子供の様子を発信できるように努めたい。 ・幼少の連携について新型コロナの状況を考え積極的に取り組んでいきたい。

3 その他の課題